

## 平成16年度実施予定の医療技術評価等について

— 診療報酬調査専門組織 医療技術評価分科会 報告 —

平成16年11月17日

分科会長 吉田 英機

### 1. 今年度の開催状況

診療報酬調査専門組織医療技術評価分科会は、中医協基本問題小委員会の付託を受け、診療報酬における医療技術の適正な評価の観点から、難易度・技術力・時間に関する調査等の評価、新規医療技術の評価及び既存医療技術の再評価等を平成15年度から実施してきた。今年度は、これまで3回にわたり以下の日程で開催し、今年度評価を実施する医療技術等について検討を行った。

第1回 平成16年7月7日 (水)

第2回 平成16年7月29日 (木)

第3回 平成16年10月7日 (木)

### 2. 今年度評価実施予定の医療技術に関する調査について

今年度は、学会等が実施する以下の調査について評価を行うことを予定している(概要は別紙1参照)。

1. 内科系外来技術の難易度及び時間に係る調査
2. 手術等の難易度及び時間に係る調査
3. 手術件数とアウトカムの関係に係る調査
4. リハビリテーション・消炎鎮痛等処置に係る調査
5. 在宅療法の普及及び技術評価に係る調査
6. 放射線治療に係る難易度及び時間の調査
7. 院内製剤における薬剤師の技術評価に係る調査
8. 薬剤の情報提供等におけるチーム医療としての評価に係る調査
9. WOC (創傷・ストーマ・失禁) 看護技術の有効性に関する調査
10. 歯科固有の技術に係る調査 (睡眠時無呼吸症候群の治療法としての咬合床に係る調査等)

### 3. 医療技術の評価・再評価について

診療報酬における医療技術の適正な評価の観点から、学会等から提出される医療技術評価希望書に基づき、新規医療技術の評価及び既存医療技術の再評価を別紙2の通り実施することを予定している。

医療技術に係る調査について

調査名	目的	調査主体	調査対象医療機関・調査客体・調査方法等 (調査対象医療機関)	今後のスケジュール
1 内科系外来技術の難 易度及び時間に係る 調査	医療技術を適切に評価する観点から、内科系外 来技術の時間等に係る調査を行う。	内科系学会社会保険連合 会	1) 200 床以上の病院：内保連加盟学会の保険委員の所属 する約 150 病院からそれぞれ 2~5 診療科、計約 500 診療 科を目標に調査を実施する。 2) 200 床未満の病院及び診療所（有床、無床）：200 床未 満の病院、有床診療所、無床診療所のうち計約 30 医療機 関において調査を実施する。 (調査客体・調査方法) ・各病院・診療所に調査担当者（実際に診療に従事する医 師）を置く。 ・平成 16 年度内の任意の日に調査担当者を受診した初診・ 再診患者を対象として、患者属性、疾患名、診療行為毎 に要した時間等を調査する。 ・調査対象患者は、200 床以上の病院については連続する 最小 10、最大 20 例の患者、200 床未満の病院及び診療所 については最大連続する 30 例の患者とする。	平成 16 年 11 月以降 調査対象医療機関に調査 依頼、調査対象医療機関か らデータ提出 年度内 集計・診療報酬調査専門組 織への報告
2 手術等の難易度及び 時間に係る調査	医療技術を適切に評価する観点から、手術等の 難易度及び時間に係る調査を行う。	外科系学会社会保険委員 会連合	(調査対象医療機関) ・日本外科学会指定施設 (1097)、関連施設 (1650) ・外保連参加学会で推薦する施設 (調査客体・調査方法) ・平成 16 年 11 月から 3 カ月間に、各医療機関の手術室 において実施された手術に係る麻酔記録などを調査対象 とする。 ・調査対象病院は、3 カ月間に行われた手術に関して、手 術術式名、相当する診療報酬点数表上の区分 (Kコード)、 手術に参加した医療従事者 (医師、看護師等) の人数、 要した時間等を、麻酔記録などに基づき指定された様式 に従って磁気媒体によりデータを提出する。	平成 16 年 11 月 外保連から学会認定施設 への調査の依頼 平成 17 年 1 月 調査対象病院からのデー タの提出 年度内 集計・診療報酬調査専門組 織への報告
3 手術件数とアウトカ ムの関係に係る調査	医療技術を適切に評価する観点から、手術件数 とアウトカムに関する調査を行い、手術の施設 基準のあり方に関する基礎資料を収集する。	外科系学会社会保険委員 会連合	・外保連に加盟している関係学会が所有するデータから、 手術件数とアウトカムに関する解析を行う。またデータが ない場合には、関連施設において、手術件数とアウトカム の関係に関するデータを収集する。 ・アウトカムの具体的内容及び対象期間は調査学会が決定 する。またアウトカムを左右するような患者の背景因子情 報 (年齢など) があれば、可能な限り収集する。 ・症例数が少なくても症例数とアウトカムの相関を検証する ことが可能な場合は、症例数のみ調査する。 ・その他、文献検索によるエビデンスの収集を行う (少 なくとも過去 10 年間の研究で、パブメド及び医学中央雑 誌に掲載された論文について行う)。 ・学会の手術委員は、文献検索に基づくサマリーを作成す る。	平成 16 年 11 月 外保連から学会認定施設 への調査の依頼 平成 17 年 1 月 調査対象病院からのデー タの提出 年度内 集計・調査完了した分から 順時診療報酬調査専門組 織への報告

4	リハビリテーション・消炎鎮痛等処置に係る調査	リハビリテーションについて、対象となる患者の特性や診療頻度、必要な医療資源に関する実態調査を行い、患者特性に着目した診療報酬上の評価が可能であるかについて検討を行う。また、本調査に基づいて、各疾患のステータス毎にリハビリテーションの診療報酬のあり方について検討する。	日本リハビリテーション医学会 心臓リハビリテーション学会 日本呼吸器学会 日本整形外科学会 日本臨床整形外科学会	(調査対象) 各学会の認定施設より選定。対象症例数は約4000程度を予定。 (調査方法) 各医療機関において最近1年間の診療記録などに基づき、指定された様式(調査票)に従って、磁気媒体でデータを提出する。	平成16年11月以降 調査対象医療機関に調査依頼、調査対象医療機関からデータ提出 年度内 診療報酬調査専門組織への報告
5	在宅療法の普及及び技術評価に係る調査	在宅医療の普及促進の観点から、腹膜透析や在宅酸素療法等の在宅療法の普及状況の把握と、普及の推進に際しての阻害要因について供給側、需要側の側面から多面的に抽出し、状況改善に向けた課題形成を行うと共に、各在宅療法に関する診療報酬上の適正な技術評価について調査・研究を行う。	内科系学会社会保険連合	(調査対象医療機関) 既存調査等のデータベースより対象領域の患者を多く持つ医療機関を特定し、調査対象とする。(約250施設、4000例程度を予定) (調査客体・調査方法) 調査対象医療機関に対し、腹膜透析、在宅酸素療法等の在宅医療について、その現状及び課題(普及の阻害要因等)に関するアンケート調査を実施する(対医療機関、对患者)。また、あわせてレセプト情報も収集する。	平成16年11月以降 調査対象医療機関に調査依頼、調査対象医療機関からデータ提出 年度内 診療報酬調査専門組織への報告
6	放射線治療に係る難易度及び時間の調査	放射線治療の技術評価のために放射線治療技術(直線加速器による定位放射線治療、密封小線源治療等)ごとの治療計画とそれに基づく照射について、関係する職種別協力者数、施行時間について広汎な調査を行い、放射線治療試案作成の資料とする。	日本放射線腫瘍学会 日本医学放射線学会	(調査対象医療機関) 日本放射線腫瘍学会で隔年ごとに行われる構造調査に回答する施設の中から年間新規登録患者数が100例以上(約400施設)を調査対象医療機関とする。 (調査客体・調査方法) 調査対象医療機関は、診療報酬点数表上の区分(Mコード)に従い、要する時間、人員等に関するデータを提出する。	平成16年11月以降 調査対象医療機関に調査依頼、調査対象医療機関からデータ提出 年度内 診療報酬調査専門組織への報告
7	院内製剤における薬剤師の技術評価に係る調査	医療現場のニーズに応えて、病院薬剤師が薬価基準収載医薬品とは異なる剤形の医薬品などを院内で製剤化している現状をふまえ、院内製剤の種類、実態等を調査し、製剤化に要する技術評価の在り方について検討するための基礎資料を得ることを目的とする。	日本病院薬剤師会	(調査対象医療機関) 全国250床以上の医療機関(一般病院)を調査対象施設とする。 (調査方法) 調査対象医療機関において、過去1年間に製された院内製剤の名称、剤形、処方内容、調製方法などについて、調査票を用いて調査する。さらに、当該調査データを集計後、分析・検討を行い、主要な院内製剤を絞り込んだ上で、その調製に係るタイムスタディを実施する。	平成16年11月 調査対象医療機関の選定、調査票の送付 12月～1月 調査票の回収、分析・検討 平成17年1月～2月 タイムスタディ 平成17年3月 調査結果報告

8	<p>薬剤の情報提供等に おけるチーム医療と しての評価に係る調 査</p>	<p>薬剤の情報提供に基づく患者に対する薬物療法の 充実あるいは医療安全対策推進の観点から、 チーム医療の中での薬剤師の技術の評価のあり 方について検討するための基礎資料を得ること を目的とする。</p>	<p>日本病院薬剤師会</p>	<p>(調査対象医療機関) 平成15年度において薬剤管理指導業務を積極的に推進 している施設を調査対象医療機関とする。(日本病院薬剤 師会の現状調査に基づき選定：約200施設) (調査方法) 調査対象医療機関において、チーム医療の中で薬剤師が行 う薬剤の情報提供等に係る技術について、医療安全管理、 院内感染防止対策、褥瘡対策、疾病別薬物療法・指導(が ん薬物療法、糖尿病薬物療法、精神科薬物療法)、栄養管 理の項目ごとに、調査票を用いて調査する。さらに、当該 調査データを集計後、分析・検討を行い、医療機関を選定 した上で、実地調査を行い、詳細分析を行う。</p>	<p>平成16年11月 調査対象医療機関の選定、 調査票の送付 12月～1月 調査票の回収、分析・検討 平成17年1月～2月 実地調査 平成17年3月 調査結果報告</p>
9	<p>WOC(創傷・ストー マ・失禁)看護技術の 有効性に関する調査</p>	<p>WOC看護技術の技術的成熟度及び患者アウト カムに及ぼす影響を介入研究により明らかにす る。 (1) WOC看護技術が、褥瘡の治療経過に及 ぼす影響を明らかにする。 (2) ストーマ造設術後の在院日数、ストーマ 周囲の皮膚トラブルの状態及び治療経過、退院 後のQOL等との関連を明らかにする。</p>	<p>日本看護協会</p>	<p>(調査対象医療機関) WOC看護技術を有する看護師が就業する医療機関20 0施設及び前述の専門的技術を有する看護師が就業して いない医療機関を一定の条件の下に抽出 (調査客体) 対象患者は、患者条件をマッチングさせた褥瘡及びストー マケアを必要としない患者 介入群 対照群 計 ① 褥瘡 200 300 500名 ② ストーマ100 100 200名 (調査方法) 一定期間における介入群と対照群の患者の褥瘡の治療過 程、ストーマ周囲の皮膚トラブル等の比較・分析</p>	<p>平成16年11月下旬 調査票送付 平成17年2～3月 集計・分析 3月下旬 調査結果報告</p>
10	<p>歯科固有の技術に係 る調査</p>	<p>歯科医療機関における歯科固有の技術(睡眠時 無呼吸症候群の治療法としての咬合床の現状等 調査を含む。)に関する「難易度」、「時間」等に 関する調査を行い、診療報酬改定における医療 技術の適正評価の基礎資料を得る。</p>	<p>日本歯科医学会</p>	<p>(調査対象医療機関) 歯科大学病院及び歯科診療所等を受診した患者に対して 臨床経験が5～15年の歯科医師が行った治療について「難 易度」、「時間」等に関する調査を行う。 (調査方法) 歯科固有の技術である「処置(歯周治療・齶蝕治療等)」、 「手術」、「補綴治療」等に関して「相対的難易度調査(歯 の部位、補綴物の材料、設計等による難易度の差等を含 む。）」、「歯科診療行為の所要時間計測」等の調査を行う。</p>	<p>平成16年12月中 調査票送付 平成17年2～3月 集計・分析 3月下旬 調査結果報告</p>